

盗聴発見業者の選び方マニュアル ver1.15

発行者/著作権者 : (株)Akai 探偵事務所

URL : <http://www.akai-web.com/>

e-mail : info@akai-web.com

TEL : 072-873-1995(大阪)

042-382-0575(東京)

盗聴盗撮調査 専用ホームページ

<http://www.akai-tap.com/>

この文書に掲載されたすべての内容について、無断転載、複製、
複写、盗用を禁じます。

この文書は 一般的なパソコンの解像度(1024×768)に
最適化された表示サイズとなっています。

お使いの環境に応じて Adobe Reader の表示倍率設定を
調整していただければ さらに読みやすくなります。

悪徳業者のトラブル事例

トラブル事例 1

< ホームページの機材と違う >

【トラブル事例1】

ホームページに掲載されている機材で調査してくれない

ホームページには、たくさんの調査機械が乗っていたから調査を頼んだのに、実際は簡単な機材だけで調査されました。調査が終了した後、納得がいかないのです。
「ホームページの機械はなんだったの？」と問い詰めたら、「機材は、こういう機材もあると参考の為に書きましたが、うちが所有しているとは書いてないですよ」と言い張ります。
「ホームページと違う機械じゃないなら、料金を返して欲しい」と言いましたが、
「すでに、調査も完了したので、返金はできない」と言われました。

また、ホームページの書き方をみると、明らかに持っているかのように書いているのですが、確かに業者が言うように、所有しているとは、明言していませんでした。

[解説]

かなり、紛らわしい広告宣伝の方法ですね。このお客様からは、その後、電話でも相談を受けたのですが、ホームページ上の機材と、実際の調査機材が、あまりにも違っていたようです。ここまで酷ければ、ほぼ詐欺に近いので、法的に返金も可能だと思います。

通常、盗聴発見業者が「調査機材」を自社のホームページで紹介するのであれば、当然、それらの機材は、所有しているものとお客様は推測するでしょうし、少々の違いというレベルを超えて、大幅に違っている点は、問題です。

いずれにしても、明らかに宣伝と異なる機材を持って来るようなら、調査前に、調査自体を止めてもらう等で対処した方が良かったと思います。また、可能であれば、ちゃんとホームページに記載されている機材を 使用してくれるかどうかを、事前に聞いた方がいいでしょう。

トラブル事例2

< E子さんのケース >

【トラブル事例2】

「お宅から盗聴電波が出ているので調べさせてもらえますか？」

ある日、盗聴発見業者を名乗る男性が、E子さん宅に訪ねてきました。

最初は疑いつつも、「早く撤去しないと生活が全て覗かれてしまいますよ」

という言葉に不安を感じ、調べてもらうことにしました。

業者は早速、靴から機械を取り出し、家中を調べ出しましたが、しばらくして、

「1階の天井裏に仕掛けられているようです」とE子さんに伝え、天井裏を覗き込んで作業に入りました。業者は10分ほどで作業を済ませ、取り外した小さな金属製の物体をE子さんに見せました。業者が軽く叩くと、持っていた小型受信機にも同じ音が入ってきていた為、どうやら本当に盗聴器が仕掛けられていたようです。

E子さんは業者にお礼を述べると、業者は調査前に提示した5万円ではなく、撤去費用も含めて14万円という金額を請求してきました。請求額に驚き「最初の見積もりと違う」と訴えると、業者は、「調査の了解を得ておりますし、盗聴器も出てきていますので、キャンセルは出来ませんが、どうしてもというなら契約違反で訴えることになりますよ？」と少し強めの口調で言われ、混乱したE子さんは結局、この業者に14万円という高額な料金を支払ってしまいました。

[解説]

今回のケースの業者は、悪徳業者による手口であると推測できます。

この流しと呼ばれる手口は、被害件数は減ってきてはいますが、無くなった訳ではありません。

流しをしている業者の全てが悪徳という訳ではありませんが、すぐにその場で調査をお願いした点はE子さんの失敗です。

例えば「無線に詳しい人に相談してから決めます」と答えていれば、ほとんどの悪徳業者は退散するはずですが。悪徳業者に共通しているのは「恐怖心を煽り、依頼を急がせること」で、渋る人に対しては、家庭のコードレス電話を受信して聞かせることで信じ込ませます。

コードレス電話と盗聴とは基本的に無関係ですが、知識がないと、否定しにくいものです。また、調査前と後で請求する料金が違うのはかなり問題です。

別途費用がかかるのであれば、事前にきちんと説明するのが、当たり前です。

E子さんからの情報だけなので詳しくは分かりませんが、この業者が行った調査は、単なるパフォーマンスだった可能性が高い と思われます。

「1階と2階の中間付近に反応が出たから設置場所は天井裏に違いない」と言い切れるほど盗聴調査は単純ではありません。しかも、Eさんの許可なく勝手に取り外した点は、業者が持ち込んだ盗聴器を、いかにも「発見」したかのように見せる自作自演の可能性があります。

今回に限らず、一人でいる女性は悪徳業者に狙われやすくなっています。

特に、機械全般に対する知識が少ない、盗聴への恐怖心が強い、近所へ噂が広がるのを恐れて泣き寝入りするケースが多い、といった条件が満たされていると要注意です。

悪徳業者の手口をできるだけ多く知り、いざという時にも冷静な対応を心がけてください。

この失敗談から学ぶこと

- ・いきなり訪問してくる「流し業者」にはトラブルが多い
- ・私生活が覗かれる、というような脅迫に乗せられてはいけない
- ・撤去費用など、追加料金については事前に確認しておく
- ・自分で勝手に盗聴器を取り外してしまう業者は、自作自演の可能性が高い
- ・一人でいる女性などはターゲットになりやすい傾向がある

調査力から見た選び方

< 調査機材が豊富 >

チェックリスト

業者が使用する機材を分けると大まかに下記となります。

業者が下記の機材をどの程度、所有しているのかによって、調査力が決まってきます。

業者によっては、全てを所有しているところもあります。

- ・スペクトラムアナライザー (外付タイプ)
- ・広帯域受信機 (固定タイプ)
- ・広帯域受信機 (ハンディータイプ)
- ・広帯域受信機 (映像タイプ)
- ・盗撮カメラ発見器 (映像受信型)
- ・盗撮カメラ発見器 (ファインダー型)
- ・盗撮カメラ発見器 (CCD 探知型)
- ・ディスコーンアンテナ
- ・八木アンテナ
- ・電界強度計 (電波探知機)
- ・ファイバースコープ
- ・金属探知器
- ・盗聴器発見専用機器
- ・リモコン盗聴用専用機

スペクトラムアナライザー 有効度: 5

スペクトラムアナライザーは電波の派形をリアルタイムで見ることができる機械です。

従来の調査方法では、受信機から聞こえてくる音声のみを頼りに調査を行う方法だったのですが、目で派形を見て判断できるようになり、調査力が劇的にアップしました。

スペアナを使用するかどうかによって、調査力に相当違いが出ますが、かなり高価な機材という事もあり、所有する業者がそれほど多いとは言えません。

逆に、スペアナを所有する業者は、調査力がかなり高いと言えると思われます。

広帯域受信機(固定タイプ) 有効度: 2 ~ 3

受信機がなければ、調査自体が不可能ですので(統合型の中でも相当ハイレベルな機材を使用しない限り)業者が行う盗聴発見では、受信機は必須です。

昔は、ハンディー機と呼ばれる小型の受信機だけで調査する業者もありましたが、今は、ほぼ全ての業者が、固定タイプの受信機を使用しています。受信機の性能としては、信号対雑音比(S/N)、感度、混変調への強さ、カバー周波数、モードの多彩さ等、さまざまな要因で決まります。

一般的には、マニアが良いとする受信機が、そのまま盗聴発見調査でも良いと言う訳ではありませんので、盗聴発見調査に向いている受信機を使用してくれる業者が良いでしょう(例えば、いくら基本性能が高くても、カバー周波数が低ければ意味がありません)。

広帯域受信機(ハンディータイプ) 有効度: 1 ~ 3

トランシーバーのように、片手で持てるタイプの受信機です。

性能的には、どうしても固定機に劣る場合が多いのですが、中には、下手な固定機よりもよっぽど優秀なハンディー機もあつたりします。固定機よりも持ち運びが便利ですので、一般的な盗聴発見調査では、周波数スキャンは、固定機で行い、盗聴器が発見された後、盗聴器の場所の特定等に使用されるケースが多いです。

広帯域受信機(映像タイプ) 有効度: 2 ~ 4

TV映像から盗聴カメラの映像まで、飛んでいる電波を受信して映像化できるタイプの受信機です。有名なもので、SR2000Aがあります。マニアから見ると、RF部の受信機としての基本性能はよくない部分もありますが、それを補って余る機能が満載です。

単純に盗撮カメラの映像受信できるのみならず、簡易スペアナとしての機能もありますので、場合によっては、これ1台のみで、ある程度の調査はできてしまう利点があります。しかし、スペアナ機能はあくまでもおまけなので、本格的な業者なら、外付けのスペアナを追加で使うでしょう。

リモコン盗聴器対応専用機 有効度 3 ~ 4

いわゆる、電波の発信をON/OFFできる盗聴器に対応する為の機器です。

従来はリモコン制御の盗聴器というのは、存在しなかったのですが、現在では、企業間盗聴等、プロが関与する盗聴器に多く使用されています。さらに最近は、リモコン制御だけでなく、複数の周波数を瞬時に切り替える為、通常の受信機では、解読不可能なスクランブルをかけるという高度な盗聴器も使用されています(プロの間では、こちらの方が一般的です)。

これに対応する為には、リモコン盗聴器のみに対応した専用機材が必要になりますが、リモコン盗聴器の種類別に専用機材が必要になりますので、業者側の出費としては、相当なものになる為、国内の業者のほとんどは、対応してないのが一般的です。リモコン盗聴器に対応している業者の割合は、全体の5%未満と極少数なのが現状です。

盗聴発見専用機器 有効度 1 ~ 4

これは、盗聴器を発見するための専門の機材です。

安物の電界強度計並の機能しか持たないものから、100万円を超えるハイスペックのものまで多数のものがああります。盗聴発見の原理は、電界強度を調べるタイプから、発生した音波を受信して、盗聴器の有無を調べたり、さまざまな方法がありますので、ここでは書ききれません。

これら専用機すべてに言えることですが、国産品よりも、海外品の方が、すぐれた機材が多いという点です。これは、国内メーカーの技術力がないというよりも、単純に値段の問題が大きいのではないかと思います。国産だと、この手のタイプの専用機はすべて10万円以下という価格帯であり、国内のプロ市場の規模が小さいのがネックとなっています。ちなみに、受信機に関しては、国産メーカーの方が優秀な事が多いです。

盗撮カメラ発見器(映像受信型) 有効度: 2 ~ 3

盗撮カメラを発見する為だけに作られているもので、受信した映像をモニターで見ることができます。専用機だけあって、受信機タイプと違い極めて高速でスキャンできるのが最大の利点です。

しかし、周波数帯域や、付加機能等、総合力では、受信機(映像タイプ)に軍配が上がります。また、盗撮カメラを発見する目的ではなく、他の盗撮カメラとセットで販売されている受信機も、似たような使い方も可能です。性能比では、下記のような順番になると思います。

盗撮カメラ用の受信機 < 盗撮カメラ発見専用機(映像受信型) < 受信機(映像タイプ)

盗撮カメラ発見器(ファインダー型) 有効度:1~2

ファインダーを覗いて、LEDを点灯(点滅)させる事により、CCDカメラのレンズ(ごく小さなもの)を赤く浮かび上がらせる特徴があります。いわゆる目視によるチェックを、判り易くできるというのが、この製品の売りですが、プロが使う調査としては、かなり弱い部分がありますので、一般的には、他の調査と併用して使用するというのが基本です。

この機材はプロの調査で使うというよりも、女性が公衆トイレを利用する際に、盗撮カメラがついてないかどうかを簡単にチェックしたいというケースの方が、より有効ではないかと思います(とくに薄暗い場所で、簡単にチェックしたい場合は、かなり効果的でしょう)。

盗撮カメラ発見器(CCD 探知型) 有効度:1~2

これは、非常にユニークな原理で盗撮カメラを発見する機材です。

CCDやCMOSから出る15.75Khzの映像信号を探知する理論で、有線による盗撮カメラも発見することが可能です。実際に使用してみると、誤動作や探知できないカメラ、発見距離等を考えると、かなり扱い辛い部分もあります。しかし、今までの手法で発見できないカメラが発見できてしまうという点は、評価してもよいでしょう。

ディスコーンアンテナ 有効度:2~3

名前の通り、上部に円盤状(ディスク)の下部に円錐状(コーン)のアンテナ素子がついています。骨だけの傘のような奇妙な形をしていますが、高性能なアンテナです。自衛隊をはじめ、民間の航空用などにも使われており、広帯域受信機用として市販もされています。

固定の共有周波数のみ受信できる一般的な共振アンテナを発展させ、あらゆる電波を安定的に受信できるようになっています。海外では、盗聴発見業務のなかでディスコーンをごく一般的に使っていますが、国内業者では使用どころか所有すらしていないところの方が多いようです。

一般的な盗聴発見業者で、使用されるロッドアンテナでは、受信機の最大周波数の1/3程度しか、対応していない事が多く、受信機の性能にアンテナの性能がおいついてないのが現状です。

ディスコーンアンテナは、幅広い周波数帯域の調査にはなくてはならない、盗聴発見業務に必須の機材と言えますが、国内では、まだまだ普及していないのが実情です。

八木アンテナ 有効度:1~2

パフォーマンス目的として、もっとも活用されている機材の一つです。

オーバーな機材を見せつけて、“さすがプロ”と思わせる場合の方が多いようです。持っている調査員すべてがそうだとはいいませんが、固定機での周波数スキャンがなければ、疑ってかかった方がいでしょう。最初から、これを受信機に付けて周波数スキャンする事はありません。

構造がシンプルなため、通信用としても幅広く使われています。また、テレビの受信用アンテナとして使われていることから分かるように、向けられた方向からくる電波を強く受信するのが、このアンテナの特徴です。

盗聴電波の発信源を特定することを得意とし、盗聴発見業務の仕上げの段階で使うのが正しい使用方法です。また、工場や会社などの広い敷地での場所特定にも威力を発揮する場合があります、電界強度計につけて使用することもあります。

ファイバースコープ 有効度:1~2

ご存知の通り、わずかな空間さえあれば自在に入り込めるのが、ファイバースコープです。

医療用、災害時の救助用はもちろん、工業用として、さらにスパイも使っており、あらゆる場で活躍している機材です。もちろん、盗聴発見業務においても例外ではありません。主に、盗聴器を発見したあと、場所特定に使用します。手の届かないようなところでも挿入できるので、巧妙に仕込まれた盗聴器を目視で確認するにはもってこいです。

一般的には、ライトが付属しているタイプと、そうでないタイプがありますが、ライト付きのタイプの方が、暗い場所でも使用できるので、効果的です。毎回、役立つものではありませんが、盗聴発見には心強い道具です。

金属探知機 有効度:1~2

トレジャーハンターも使う機材は、盗聴発見の際にも役立ちます。

必ずしも必要ということではありませんが、発見しづらい盗聴器でも、ファイバースコープとの併用により、盗聴器の場所特定を飛躍的に高めてくれます。ファイバースコープが苦手とする、完全に密閉された場所、ぬいぐるみの中など、開けることが困難な場合には、威力を発揮します。一般的には、盗聴発見業務には、小型のタイプが使用される事が多いようです。

<知識が多く調査範囲が広い>

[ここがポイント!]

- ・盗聴盗撮発見についての知識が豊富
- ・それを依頼者に分かりやすく説明できる
- ・アナログ盗聴器だけでなく、デジタルや盗撮カメラにも対応できる

[その理由は?]

ある程度の安心感は営業トークで「演出」できても、知識不足だけは隠しようがありません。この点は、優良業者かどうかを判断するのに重要なポイントとなります。

盗聴発見業には免許も届出も必要ありませんから、仕事の少ない探偵や、サラリーマンついでに副業としているような個人業者も、簡単に「営業だけなら」できてしまいます。

業者の実力(知識)を依頼前に判断するため、最初の見積り段階でいくつかの質問を試みるのが有効です。

- ・デジタル盗聴って何ですか？
- ・電波を飛ばさない盗聴器ってありますか？
- ・盗聴って違法ですか？
- ・コンクリートマイクって何ですか？
- ・発見が難しいタイプの盗聴器って何ですか？
- ・リモコン盗聴器って何ですか？
- ・スクランブルとはどのような事ですか？
- ・盗撮カメラの調査はできますか？
- ・もし盗聴器が見付かった時はどうすれば良いですか？

少なくとも、上記のような質問に答えられない業者は、残念ながら知識があるとは判断できません。

実力のある業者であれば、お客様からの質問に答えてくれます。色々な事例や最新情報を挙げながら分かりやすく説明してくれる調査業者を選びましょう。

< 調査手順など内容を隠さない >

[ここがポイント!]

- ・どんな種類の機材で調査するのか事前に教えてくれる
- ・調査の大まかな流れを事前に教えてくれる

[その理由は?]

見積りや相談で「どんな内容の調査をしてくれますか?」と聞かれて、「それは企業秘密ですから答えられません」と何も教えてくれない業者では、あまり信用する気になれないのではないのでしょうか。

よほど特殊なことでない限り、調査の手順や大まかな内容自体は機密でも何でもありませんから、公開してくれるのが普通だと思います。

少なくとも、以下の事項については隠さず情報公開してくれるのが優良な業者です。

- ・簡易スキャンから詳細チェックまで、調査の大まかな手順
- ・調査に使う機材の構成(受信機の台数、基本性能など)
- ・調査機材を使い、何ができるかという大まかな機能
- ・盗撮調査も同じ料金の範囲内で可能かどうか
- ・調査全体の所要時間

テレビを電気屋で買う時に「商品のカタログを見せてください」とお客様が言ったとして、「それはできません」と答える店からは、誰もテレビを購入しないでしょう。それと同様に、ごく基本的な調査内容さえも隠しているようでは、不審に思われても仕方がありません。

以下に、およその調査項目を書いておきますので、依頼時の参考にしてください。

[簡易スキャン]

発見割合の統計的に多い代表的な周波数を、素早くスキャンする。調査作業の効率化と、最低限の安全確保が目的。これだけで調査を終えてしまう業者もあるので注意。

[詳細スキャン]

業者によって最も内容が異なる部分。基本的には、簡易スキャンでの周波数も含めた、存在し得る全周波数(発見実績がない範囲までも)を詳細に調べていくことになる。

最近盗聴盗撮方法も多様化してきたので、上限周波数は3GHzくらいまでであるのが理想的。目視も交えながら、スペクトラムアナライザーや各種アンテナも使い、漏らさず徹底的に調べる。

[その後]

盗聴器が見つかれば警察に通報するのが基本。依頼者の許可も得ず、勝手に自分で取り外してしまうような業者ではいけない。依頼者への詳しい説明など、アフターサービスがある場合は、この段階になる(調査中はあまり会話しない)。

もちろん業者の機材や調査方針によって、内容は大きく変わりますので、上記の調査手順が必ずしも絶対ではありません。調査技術も進歩しています。

ただ、かなり高い料金を受け取って、簡易スキャンしかおこなわない業者が多いのは、残念ながら事実です。事前に調査内容を教えてくれない場合には、特に注意したほうが良いかもしれませぬ。

信頼性から見た選び方

<住所や連絡先を公開している>

[ここがポイント!]

- ・所在地や責任者氏名がはっきり公開されている
- ・メールや電話など、複数の連絡方法が明らかになっている
- ・非通知からの電話でも出してくれる
- ・営業時間内であれば、きちんと電話が繋がる

[その理由は?]

商売の世界では当たり前のことですが、住所や電話番号、責任者氏名といった「責任の所在」を明確にしているところが業者としての最低条件です。

これは逆にいえば、責任の所在をお客様に知らせていない業者がそれだけ多いということで、特に探偵社が盗聴発見もやっている場合によく見られるケースです。

もちろん所在地をどこにも書いていない、またはメールアドレスだけで営業している中でも、調査力が高く親切な業者さんがいることは確かです。

しかし、どんなビジネスであれ、特に探偵業や盗聴発見業のようなプライバシーに関わる仕事をするのであればこそ、自社についての「責任の所在」は明らかにしておかなければなりません。

こういった基本情報は公開してこそ、お客様からの信頼を得られるものですから、それを知っていてやらないということは「何かを隠している?」「トラブルが起きたら逃げられるのではないか?」と疑われても仕方ないと言えます。

普通の業者であれば、この点に関して嘘や誇張はありません。

住所や責任者氏名はもちろん、資本金にいたるまで正確に書いてあるはずで

もちろん、こういった条件を満たすような業者であれば、少なくとも契約面で失敗する可能性は

低いでしょう(調査技術は別の問題ですが)。

また、業者が登記されている法人組織である場合は、インターネットを使えば社名だけから信用情報を取得することができます(大手信用調査会社の有料データベースなど)。

検索料金は1社あたり1000円~2000円程度で、個人でも登録さえすれば手軽に利用できます。少しばかり情報検索料金はかかりますが、これもトラブルを未然に防ぐ有効な手段といえるのではないのでしょうか。

- ・個人営業でも責任の所在が明らか
- ・有名企業でも責任の所在が不明で、自称する会社規模や実績に不審な点も多い

この両者をくらべれば、前者(個人営業)を選んだ方が、満足できる調査をしてくれる可能性は高いと思われます。

< 分かりやすい料金体系 >

分かりやすい料金体系

[ここがポイント!]

- ・料金体系が明らかになっている
- ・最終的な支払い総額を見積りしてくれる

[その理由は?]

盗聴発見業者には、いくつかの料金体系、課金方式があります。代表的なものだけ挙げると、以下のようになります。

- ・調査面積や間取り等に合わせて料金が決まる
- ・一戸建てやマンション、会社などの分類で料金が決まる
- ・盗聴器を1つ撤去するごとに追加費用が発生する
- ・盗撮カメラの調査は別途料金
- ・調査時間に応じて追加料金が発生する

このあたりは方針の違いということもあり、どれが優れているとか劣っているという区別はありま

せん。むしろ料金体系そのものよりも、優良な業者を判断するポイントは、見積り段階で「どれくらいの総額になるか」をはっきり出してくれるかどうかという点です。

もし悪徳業者であれば、契約後になって色々な名目で追加請求してきますが、優良な業者は、依頼契約をする前に料金説明をしっかり教えてくれます。

なぜ今回の見積り額になったのか、追加料金が発生するかどうか、追加料金があるとすればどんな場合か、といった点を分かりやすく説明してくれるかどうか大きな判断ポイントです。

決して、見せかけだけの「盗聴調査1000円！」というような宣伝文句に引っかからず、あくまで「最終的な総額がいくらになるか」で盗聴発見業者を判断するようにしましょう。これは探偵業など、あらゆる調査会社を選ぶときの必須ポイントです。

<アフターサービスも親切>

アフターサービスも親切

[ここがポイント!]

- ・依頼者からの質問には詳しく答えてくれる
- ・今後の防犯体制についての的確なアドバイスをしてくれる

[その理由は?]

盗聴発見業者の仕事は、基本的に「盗聴器や盗撮カメラがあるかどうか調べる」ことです。しかし同時に、「お客様に納得・安心していただくこと」も仕事のひとつだと思います。

あまり調査後のサービスに力を入れていない業者では、実際の調査に30分~1時間をかけて、何もなければそのまま料金を受け取って帰ります(それ自体は悪いことではありません)。

その一方、説明責任をしっかりと果たすような優良業者であれば、盗聴器がなかったとしても十分な説明をして、依頼するに至った経緯まで依頼者から聞き、今後の防犯アドバイスなどもおこないます。

- ・どんな方法でどの範囲を調査したか

- ・今回の調査でカバーしきれていない範囲はないか
- ・あまり知られていない、最新の盗聴事情はどうなっているか
- ・コードレス電話を傍受されない為にどうすればよいか
- ・今後の防犯体制はどうすべきか
- ・依頼者が自分で定期的なチェックをするには、どうするか

調査後にも、上記のような点について親切に説明・アドバイスしてくれる業者を選ぶことができれば、その選択は間違っていなかったことになると思います。

アフターサービスがしっかりしているかどうかを事前に知るには、依頼前に問い合わせた電話やメールなどの対応が参考になります。きちんと料金や調査方法について詳しく説明してくれるような業者であれば、アフターサービスもしっかりしていると判断することができます。

こんな業者には注意

< 依頼者の不安心理を利用する >

依頼者の不安心理を利用する

これは、「もう少しだけ考えさせて欲しい」と依頼契約を迷っている人に対して

- ・今すぐ調査しないと手遅れになりますよ
- ・あなたのプライバシーが全部漏れていますよ
- ・わずかなお金を惜しんで、人生を狂わせる気ですか？

などと脅迫的な言動によって契約を急がせようとする手口です。盗聴発見に限らず、浮気やストーカー対策などでも悪徳業者は「不安心理」を巧みに利用して契約を迫ります。

たとえば、テレビや電話に少しノイズが入ると(ある業者へ)相談してきたお客様に対して、「それは間違いなく盗聴されていますよ」と言い切り、不要な心配をさせられたという相談が当社へ寄せられたことがあります。実際は、少しばかりノイズが入ったからといっても盗聴の心配は高くありません。テレビや電話本体の機械的な不調、ケーブルの老朽化、ブロードバンド回線の発するノイズなど、盗聴以外の原因も少なくありませんから、あまり脅迫的な言動に心配はしなくて良いと思います。

もちろん、本当にしっかりした盗聴発見業者ならば、相談に来たお客様の不安をただ煽るだけの言動はしません。話を聞かないうちから決め付けたりせず、じっくりと相談に乗り、盗聴の知識に誤解があれば分かりやすく説明し、それでも不安が解消されない場合に調査をするという姿勢が普通です。

繰り返すようですが、悪徳な業者が付けこむのは、以下の2点です。

- ・依頼者の不安な心理
- ・依頼者の知識不足、情報不足

もし、契約を急がせるような言動が相手に見られるようなら、一度は相談を打ち切って冷静に考えてみた方が良いと思います。「契約を急がせるような態度」には、十分に注意しましょう。

<業者が盗聴器を持ち込む>

悪徳な業者に調査を依頼した場合、その業者が自分で盗聴器を持ち込むことがあります。存在していないはずの盗聴器を"発見"したことにして、1個あたり4万円、といった法外な発見報酬や撤去費用を追加請求するという手口です(発見報酬を最初から明示していれば、悪徳ではありません)。

そもそも、依頼者の許可なく盗聴器を勝手に取り外してしまうような真似は、通常の業者であればやりません。そんなことをしてしまえば、本当に発見したかどうか分らず、もし本当だったとしても犯人特定の手掛かりを潰してしまうことになります。実際にあった話ですが、勝手に盗聴器を取り外してしまい、「あなたのところ(業者)が犯人じゃないの？」と警察から言われてしまった業者もあるほどです。

「盗聴器を見つけたので取り外しておきました。2個あったので8万円いただきます。」
そんな詐欺まがいの被害に遭わないためにも、依頼者が調査現場に立ち会うことを禁じているような業者の動向には十分に気を付けてください。

< 契約外の請求をする >

契約外の請求をする

前項の『盗聴器を持ち込む』と少し内容が重なりますが、契約外の請求についても詳しく紹介しておきます。盗聴発見の調査料金には、相場といったものが全くありませんから、どんな料金を支払う必要があるかは最初の段階でしっかりとチェックしておかなければなりません。

一般的な料金よりも大幅に安い金額で依頼をさせて、あとから色々な名目で追加請求するというのは、浮気調査などをおこなう探偵にも共通する、典型的な悪徳業者の手口です。特に、盗聴発見調査というのは、探偵の浮気調査よりもさらに「料金の相場」が不明瞭な分野ですから、あっさり業者の言い値で支払ってしまうケースも少なくありません。

たとえば、一戸建て住宅の盗聴調査。わずか1万円と言われたので依頼してみると、

- ・1万円というのは着手金だけ
- ・本調査の料金は、面積に応じて別途必要
- ・機材費用、出張費用が別途必要
- ・盗撮カメラも調査する場合は倍額が必要
- ・盗聴器が発見された場合は1個あたり2万円
- ・30分延長ごとに1万円追加

こんな名目で次から次に追加請求されるくらいなら、最初から4万円くらいで全部調べてくれる業者を選んだ方が損をしなかったということになります。

見積りで出された金額は、果たして最終的な支払い総額なのか？

他に追加費用はどのくらいかかるのか？

その点について確認を忘れないよう、気を付けてください。

いくつかの発見業者から見積りを出してもらい、その対応や料金、調査サービスの範囲(盗撮発見もしてくれるか?)などを踏まえた上で、実際に依頼する業者を決めるのが良いでしょう。

「どこでもウチと同じくらいの料金ですよ」という業者の言葉は、

むしろあまり信用できないと考えられます。

<調査能力が高くない>

最初から依頼者を騙すような意図があるのは悪徳業者といえますが、ただ「最低限の調査機材すら持っていない」「盗聴に関する知識が全く不足している」という実力不足な業者の場合、たいていは悪意がないだけに依頼者としても厄介です。たとえば、以下のような盗聴発見業者に依頼してしまったら、どうでしょうか？

- ・家(調査場所)に上がるなり、「盗聴発見調査に来ましたー！」と元気に挨拶する
- ・小型の受信機(ハンディ機)しか持っていない
- ・デジタル盗聴器の知識がない
- ・わずか15分～20分くらいで全調査が終了してしまう
- ・依頼者からの基本的な質問にも、まともに答えられない

いくら悪気がないとはいえ、これではお客様から料金を受け取って調査する「専門業者」としては問題があります。調査依頼する前には、こういった調査能力を見分けるために質問してみることが、とても大事になってきます。

- ・デジタル盗聴って何ですか？
- ・リモコン盗聴器ってありますか？
- ・盗聴行為は、どんな部分が違法ですか？
- ・発見が難しいタイプの盗聴器って何ですか？
- ・スペクトラムアナライザーは持っていますか？
- ・何種類くらいの機材を使って調査しますか？
- ・盗撮カメラの調査はできますか？
- ・もし盗聴器が見付かった時はどうすれば良いですか？

上記のような項目について(一部でも構いませんから)、できるだけ失礼にならない形で質問してみることをお勧めします。あるレベル以上の知識を持つ業者なら、他にも色々な最新情報などを交えながら、分かりやすく教えてくれるはずですよ。

逆に、基本的な質問についても答えてくれないようであれば、知識の乏しい業者か、情報公開をしないような業者と判断することができます。

「調査能力」というものは料金と関係なく、むしろ料金格差よりも大きく、

業者ごとに想像以上の格差があります。

盗聴発見調査といえば、料金ばかりを気にしてしまいがちですが、それと同等以上に大切な調査能力にも気を配るようにしてください。